

# Die Eiche

ディ アイヘ  
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft  
der Präfektur Chiba  
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1  
清和会第2ワールドナースィングホーム内  
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

“祝いの盃 さあなつかしの  
昔なじみの盃を”  
溢れる笑顔 響く歌声



## ビール祭り 2015 開く

ドイツ風居酒屋「マイネクライネ」(東京蔵前)で  
8月29日(土)、協会恒例のビール祭りが開かれた。  
オープン予定の午後4時半を待たずに会員31人など  
総勢43人で会場はびっしり埋まり、ピアノや歌の  
プロたちの巧みなリードでビール、ワインとドイ  
ツ料理、歌を堪能した2時間半の宴は瞬く間に終わ  
った。

ヒートアップ寸前の会場を刺激し、金谷誠一郎・専  
務理事もにこやかに「乾杯！」と、声をあげた。

盃の触れ合う中、すっかりお馴染みになった福康子  
さん奏でるピアノが響きはじめた。歌唱指導に新たに  
招かれた鈴木純子さん(二期会)がチロル地方の”Freut  
euch des Lebens” (邦題:「みんなで楽しく」)をいき  
なり声高らかに歌い上げ、会場のどよめきを誘った。

テーブルには、大皿に盛られたソーセージ、ポテト、  
チーズなどの盛り合わせが配られる間もなく空になる  
勢いで、健啖家の多い会員たちの胃袋に消えた!!

ドイツ語、日本語で用意された歌集から、「ローレ  
ライ」「菩提樹」「野ばら」などの歌が次々に。上気し  
た頬で歌集を手にした会員たちが相次いでマイクを  
握る。ピアノが『盃を持って さあ卓をたたけ』と、「乾  
杯の歌」の前奏曲を奏でると、会場は“絶好調”で  
『歌えやもろびと』。年配者に人気根強い「会議は  
踊る」の”Das gibt's nur einmal” (ただ一度だけ)も大

合唱に。声を絞る会員  
たちはどんな「たった  
一度」を浮かべたのだ  
うか!?. 宴は続いた。

この日、特別ゲスト  
が参加した。日本語受  
講のため来日したばかり  
の Benjamin Schulte  
さん(28)。独日協会 am  
Niederrhein の推薦で  
当協会が滞日中の世話を  
している。Schulte  
さんは会員たちと積極  
的に会話に務めていた  
が「私の日本語はまだま  
だダメですね」と頭をか  
いていた。Schulte さん

はその後、ビール祭りの感想をメ  
ールで寄せた。「ビール祭りは大変  
楽しかった。会場の飾りは心のこ  
もったものだった。多くの優しく、  
面白い人たちとお話したり、知り  
合いになることができました」と



会場セットなど総世話役の須古正恒・常任理事の  
“開会宣言”に続き、渡部正弘・理事が満面の笑みで  
司会を引き継いで「飲み放題以外のメニューはご自分  
で現金払い。飲み逃げはダメ！」と早くも会場を沸か  
せた。開会の挨拶で宗宮好和会長は、うち続く雨模様  
の天候に触れながら「会場はすぐにも熱くなり、ビー  
ルもおいしくなるでしょう」と、ジョッキ一片手に

## 歓迎ホームパーティー開く D市奨学生ら7人を招き 協会有志 伊東さん宅で

今年もドイツ奨学生の歓迎ホームパーティーが開かれた。協会の迎賓館になった感のある伊東惇子さん宅(当協会理事、船橋市)で、8月20日夜デュッセルドルフ奨学財団と、独日文化交流育英会の奨学生6(男女各3)人に、独日協会 am Niederrhin のマイト・ピア・智子事務局長を加えた7人を当会有志が会費持寄りでもてなした。

奨学生は21歳から28歳の若者たちで、生物物理学専攻学生、音楽家、IT関係、飲食業システムなど多彩な分野で働く人たちから選ばれて来日した。8月19日～9月14日の26日間、奨学生はそれぞれの分野で研修を続けた。研修初日は千葉県庁で森田知事を表敬訪問し、うどん打ち体験、佐倉の国立歴史民俗博物館で開かれていた「日独修好150年の歴史」展を見学した後、伊東さん宅に到着した。宗宮好和会長、橋口昭八副会長ら10人の会員が参加し、宗宮会長の挨拶などの後、歓談に入った。

奨学生たちは、伊東さんと会員家族たち手作りの筑前煮、ジャーマンポテト、チラシ寿司などへ箸を次々にのぼした。パーティーはドイツ語や英語、日本語入り乱れて、交流は大いに盛りあがった。この夜のハイライトは女子



学生の“浴衣体験”。茶や日本舞踊をよくする伊東さん心づくしのものだ。↑

<浴衣が似合う奨学生> 学生の“浴衣体験”。茶や日本舞踊をよくする伊東さん心づくしのものだ。↑

↓ 女子学生たちは毎年この体験を大変心待ちにしており、浴衣姿で仲間のカメラにポーズをとっていた。



伊東さんから女性たちに浴衣の“サプライズ・プレゼント”もあり、彼女たちは大喜び。食物研究をしているメラニー・チムネックさんは「日本でいろいろな経験をして、浴衣に合う帯を買っていきたい」と、日本を大いに堪能した3時間だった。(杉田 房之)

### ホームステイに協力 協会の3家族 木更津工専と交流のドイツ人生徒を招き

木更津工業高等専門学校(木更津市清見台2-11-1)の依頼で、当協会は9月4日にドイツ人生徒3人を招いて会員の協力でホームステイを行った。

同高専はドイツ語を正課に取り入れている全国でも珍しい学校で、デュッセルドルフにあるハインリッヒ・ヘルツ職業専門学校(HHBK)と生徒の交換授業を行っている。今年は8月30日から9月6日までHHBK生徒4人が同高専を訪問、共同授業や日本側生徒によるPOPなどの日本文化を学んだ。君津の製鉄所見学の後、日本の家庭体験となった。12月には、木更津高専の生徒たちがデュッセルドルフのHHBKを訪問し、クリスマスを過ごし、交流を深める。(橋口 昭八)

### <ご寄付をありがとうございました>

会長 宗宮好和

6月13日付けで会員の皆さまにお願いいたしましたご寄付は9月末で、64会員・家族の方がたから総額1,127,970円をいただきました。心から御礼申し上げます。

この思いがけなく高額なご寄付のなかには、石崎満会員からの50万円という過分なご寄付が含まれています。これには、毎年11月のドイツ軍人追悼慰霊祭の折に当協会が、ご生前ドイツ兵の墓のお世話をされてこられたご尊父石崎甲之(のぶゆき)様の墓前に参拝することに対する感謝の意味が込められているとのことです。ここに敢えてお名前をあげさせていただき、ご紹介申し上げます。

皆様から頂戴いたしましたご芳志は協会の一般会計健全化と、来年の協会設立20周年の行事のために生かさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。



ドイツと私

## 変わらぬ友情を

志賀 久徳



デュッセルドルからフランクフルトへ。数年前の秋だった。家内と次女と回った旅の光景が蘇る。1980年代の駐在時代へ“追憶の旅”でもあった。

「日本人村」ともいわれたデュッセルドルフでは、ビジネスで関係のあった保険ブローカー会社のドイツ人オーナーK.B.氏(72)を訪ねた。自宅の広い庭と歴史ある建物は往時のままで、ドイツの豊かな家庭の雰囲気が残っていた。当時お世話になった夫人は私たちが訪ねた1年前に亡くなったことを知り、墓参りを申し出た。お墓は美しい公園の一角の芝生にあり丸い墓石には2羽のシジュウカラ( Kohlmeise)が浮き彫りにされていた。夫人が立つキッチン<sup>かたど</sup>の窓辺でいつも囀っていたシジュウカラをそのままに象ったのだという。明るく、料理上手な夫人の面影が蘇った。



<友人の亡き夫人を家族で弔う>

K.B.氏は若いころ、日本の先輩駐在員から日本人の気質を学び、勤勉に働いた。たびたび来日し、日本と日本人理解に磨きをかけた。その努力のお蔭で事業が成功し、今はミュンヘン南部に別荘を持つほどの悠々自適の生活を楽しんでいる。私たち3人は2日間、胃袋がダウンするほどの歓待を受けた。

同社で働いている日本人スタッフのM.T.氏(64)もすっかりドイツに根を下ろしていた。定年後は家族と永住するといいい、ドイツ現地と多くの日本人との懸け橋になっている。

車好きの私だが、久し振りでレンタカーの左ハンドルを握り、右側通行に緊張しながらケルンからベートーベンの故郷のボン経由で、無料のアウトバーンに乗り南下した。時速200km以上で追い抜くドイツ車に煽られながらもリンブルグに立ち寄った後、ゲーテ生誕の地フランクフルトに無事到着した。

フランクフルト駐在当時は、日本からのお客様をハイデルベルグに案内したことを思い出す。そのころドイツを訪れる日本人はドイツ語を学んだ方が多く対応に苦労した。

中央駅近くのホテルに泊まり、滞在時に知り合ったY.N.氏(68)とビール片手に生涯現役を語り合った。N氏は日本の大学相撲で名を馳せていたが、約40年前にドイツに家族と渡り苦労して永久ビザを取得した数少ない日本人である。欧州相撲協会の役員を務め、ブルガリア出身の元大関琴欧州を日本に紹介した人でもある。N氏は現在、不動産会社を営み

「80歳まで現役」がスローガンの団塊世代。同年代の私はそのパワーに圧倒されている。

世界情勢も変わり、両国の関係は希薄になったといわれるが、ドイツは私には友好的な思い出の国である。体力や気力が続く限りドイツの旅にチャレンジしたいと思っている。

## 21,000人 じっくり見た「ドイツ展」

国立歴史民俗博物館(佐倉市)で7月から2ヶ月間開催された「ドイツと日本を結ぶもの一日独修好150年の歴史―」展は現在、長崎歴史文化博物館に会場を移して開かれている。久留島・歴博館長に千葉展の成果を聞いた。

期間中の入場者は21,000人。

「硬いテーマにしてはやや多く、成功と言える」(館長)。全体的には日独の「外交史」が軸だが、「戦争」の資料も多いためか、8月15日以降に入場者が急速に増えた。

館長によると、関心を集めたのは①歴博が今回ドイツで入手した第一次大戦時の捕虜関係の新資料②1861年締結の通商条約原本など幕末の外交文書③ドイツから將軍に贈られた白磁板のリトファニー・プレート④日独防共協定、三国同盟原本とヒトラーの署名など。入場者は平均2時間はかけて見学する“じっくり型”が目立ったという。



「展示で『戦後』が薄かったのが反省点だ」と、<開会近くでも賑わう>

久留島館長は語る。「何もないのが戦後の日独関係」といわれるが、戦後70年で両国の違いが出てきただけに、これを工夫した展示をしたかった、という。

戦後の東独関係資料もかなり蒐集したが、交流が偏っていたために日の目を見なかったようだ。2500冊を用意した図録はほぼ完売した。

## ドイツワイン事情 2015 今年の新酒は!?

爽りの秋。早くもボージョレ・ヌーヴォの便りが届き出した。ワインの新酒はフランスばかりではない。ドイツにも”Der Neue!”があるぞ、と現地や関係者に聞いた「ドイツワイン事情 2015」――。

ドイツもこの夏は猛暑が続き、最高気温 40.3 度が 2 回もあった。「葡萄の木が乾燥し、凶作が心配された」。ドイツ在住の知人が伝えてきた“ワイン情報”だ。その後、十分な降雨があり葡萄は太陽をいっぱい浴びて「エクセレントなワインができる」と、TVなどで報道されているという。

興味深いのは、葡萄と天候の関係だ。ワイナリーのオーナーによると、樹齢数年の木は根が深く水分を摂れるので、少々の乾期は問題ない。若い木は根が浅く、水撒きが必要だという。だが、一番困るのは雨の降り過ぎ。葡萄が成長を急ぎ味が落ちる。病気、虫の被害も多くなる。乾燥すると、葡萄は小さくなり収穫量はおちるが、甘味が増して病気や害虫も少ない。「乾燥はいいこと」なのだという。

ドイツでは、スーパーや量販店がワイン販売に力を入れてきたのが最近の特徴だという。照明や飾りつけに配慮した特別コーナーを用意する。プロの評価点や品評会の成績を誇示して購買欲をそそる。



<太陽をいっぱい浴びる葡萄>

「温暖化で葡萄の収穫量は欧州全体で減っているが、果実としては優れたものが期待できて、品質のバラツキがなくなった」というのは、伏見ワインの黒川英作社長。リースリングが主体のドイツはこれからが摘み取りの本番。ライン地方などで新酒を飲ませる Weinfest が開かれるのは間もなくだという。

◇これからの催し						
催しもの	開催日	曜日	時間	場 所	内 容 な ど	
	ドイツ語講習会	10/30	金	毎回	船橋市中央公民館	<b>&lt;ドイツ語でドイツの常識を学んでみませんか&gt;</b> 講師: 木戸芳子・東京音楽大教授、日本翻訳家協会理事、当協会理事 教材: ドイツ国籍を希望する16歳以上の外国人にドイツ政府が実施する「国籍取得試験」(Einbürgerungstest)問題など。適宜、初級文法も。 会費(教材費込): 会員¥3500 / 一般¥4000 / 学生¥2000 申込最終日: 10/26(月) 申込・問合せTel:080-4463-2609(受付専用)、 9:00-18:00まで。 E-mail: info@jdg-chiba.com ※中央公民館=船橋市本町2-2-5/ Tel: 047-434-5551 ※東部公民館=同市前原西2-21-21/Tel:047-477-7171
		11/ 6	〃		船橋市東部公民館	
		11/13	〃	18:10	船橋市中央公民館	
		11/27	〃	~	船橋市中央公民館	
		12/ 4	〃	20:10	船橋市東部公民館	
バス旅行	10/31	土	7:30	秋の甲斐・山梨路	コース: 船橋→山梨県立リニア見学センター(時速500km/hのリニア モーターカーを見学)→信玄館→恵林寺→登美の丘ワイナリー(習志野 俘虜収容所のドイツ兵が指導したワインづくりを。希望者のみ)→船橋 (同駅北口から徒歩7分) 費用 ¥8500/人(参加者30人の場合。人数により費用変動)。参加対 象者は会員と、その家族、友人。申込期限は10/15(水)。10/17以降、 旅行、ワイナリー見学はキャンセル料発生。問合せ: 須古正恒常任理事 080-1139-8544、小野浩理事 043-277-3400	
ドイツ軍人慰霊祭	11/15	日	11:00	船橋市営習志野霊園	今年は第21回目。第一次世界大戦で捕虜となり、習志野俘虜収容所 に収容され、死去した30人の霊を弔う。ドイツ連邦共和国大使館から 武官らも出席の予定。12:45~自衛隊第一空挺団内で直会を行う。	
習志野ドイツフェア & グルメフェスタ2015 (当協会協力)	10/17	土	11:00	JR津田沼駅前の公園と、 モリシア津田沼ビル内	習志野俘虜収容所のドイツ兵直伝のソーセージ、ビール、ワインなどの 販売。歌と踊り。当協会の活動、ドイツとの交流などパネルと写真を 展示する。	
第25回ポトルシッ 研究会	10/24	土	15:30	船橋市中央公民館	第一次大戦後の習志野俘虜収容所のドイツ兵と、彼らが伝えた文化、 交流史を調査・研究する。講師: 栗原久定氏(千葉大大学院、ポトル シッ研究会会員)。テーマ:「ドイツの植民地政策と青島(チンタオ)」	

◇会員の活動					
千葉フォーラム歴史・ 文化の会	11/26	木	15:30	船橋市中央公民館	千葉県に関わる歴史と文化の勉強会。代表、須古正恒・当協会常務 理事 / 講師: 綿貫尚氏(当協会理事) テーマ:「日本及び海外に おける損害保険について」
			~	=船橋市本町2-2-5	
			17:30	Tel: 047-434-5551	

**編集後記** 日本やドイツでも続いた猛暑が去り、食欲、読書、そして芸術の秋を迎えました。紅葉もまた、いい。上記のように協会が主催・後援する「催しもの」が盛り沢山です。来年の協会 20 周年記念では、会員の総参加型イベントが模索されている折りでもあり、一人でも多くの会員の参加をお待ちしています。(M.T.)